
移動平均線と使い方

移動平均線とは

トレンド系指標の中でトレーダーに最も人気があるのが移動平均線でテクニカルを学ぶ時に、始めに触れるのが移動平均線です。

他の指標と組み合わせて使うのが基本になります。

チャートには、ローソク足や出来高の棒グラフのほかに、折れ線が描かれていると思いますがこの折れ線が「**移動平均線**」です。

移動平均線の使い方

チャートには、一般的に短期と長期の2本の「傾き」の違う移動平均線が表示されます。

もっとも分かりやすいのが、移動平均線を一目見るだけで「トレンド」が確認できるということです。

移動平均線が右肩上がりならば**上昇トレンド**、
移動平均線が右肩下がりならば **下降トレンド**と
なります。

短い期間の移動平均線は短期的な相場の流れを
見る場合に利用し、

長い期間の移動平均線は長期的な相場の流れを
見る場合に利用します。

移動平均線と一目均衡表の雲を 使ったエントリー手法

移動平均線と一目均衡表の雲を使ったエントリー手法

一目均衡表は日本人に人気があるテクニカルですが、転換線や基準線などを表示せず、一目均衡表の雲を使っている人も多いです。

雲と色々な他のテクニカルを組み合わせて使うこともできますが、シンプルに雲のみを使ってエントリーを行っている人もいます。

■ MT4 に一目均衡表の雲のみを表示する方法

MT4 には標準で、一目均衡表が搭載されていて、**Ichimoku Kinko Hyo** や **Ichimoku** というインジケーターがあります。



⇒ パラメータは、「**転換線は 9**」「**基準線は 26**」
「**先行スパン B は 52**」が標準になります。



⇒ 今回は雲のみを使いますので、色の設定で、
転換線、基準線、遅行スパンをそれぞれ
「**None**」に設定します。

そうすると、チャート画面が以下のように表示されます。



これで、一目の雲のみのチャートが表示されます。

移動平均線と雲のみを使った トレード手法

移動平均線と雲のみを使った トレード手法

ポイント

- ・移動平均線を 200SMA で設定
- ・雲をブレイクしたら順張りエントリー
- ・雲で反転したら逆張りエントリー

移動平均線はトレンドの向きを判断するものです。

上昇トレンドであれば雲を上をブレイクするか、ローソク足の下にある雲で反転したタイミングで「**HIGH**」でエントリーします。

下降トレンドであれば雲を下をブレイクするか、ローソク足の上にある雲で反転した時に「**LOW**」でエントリーします。

上昇トレンドの場合



このように移動平均線が上を向いている上昇トレンドの時は、ローソク足が雲を下から上に抜けた時や、ローソク足の下にある雲で反転した時に「**HIGH**」でエントリーします。

雲を突き抜ける時は、雲が厚いほどトレンドが強く発生する可能性が高くなります。



雲で反発する時は、雲の上限付近で反発する方が
買い優勢ですので
雲の下限で反転した時でも HIGH でエントリーでき
ますが、反転したように見えて、すぐに下に抜ける
場合もあります。

下降トレンドの場合



このように、移動平均線が下を向いている下降トレンドでは、雲を上から下に抜けた時や、雲の下限や雲の中で反転した時に「**LOW**」でエントリーします。

移動平均乖離率とトレンドラインを 使った逆張りでの手法

移動平均乖離率とトレンドラインを使った逆張りでの手法

移動平均乖離率とは、移動平均線からローソク足が離れている割合を表したもので価格が移動平均線からどのくらい離れているか（乖離しているか）を表すテクニカル指標です。

移動平均線には「**平均から離れすぎた価格はいずれ適正な水準に戻るだろう。**」という考え方が根底にあり、この平均からどのくらい離れているかを数値化したものが、**移動平均乖離率**です。

短期間に足が線から乖離した場合、反転する可能性が高いため、そこを逆張りで狙っていくという手法です。

ベースが移動平均線なのでトレンド系の分析にも使うことができます。

■ MT4 に移動平均乖離率を表示する方法



これが MT4 に移動平均乖離率を表示したもので、MT4 は標準では移動平均乖離率がありませんのでインジケータを追加します。



パラメーターの入力の設定

「**MA_Period**」 ⇒ **MA 期間**

「**MA_Method**」 ⇒

0 = SMA , 1 = EMA , 2 = SMMA , 3 = LWMA

Apply は、乖離率の基準になる値ですが、乖離率の計算は通常は終値ですので、「**0=Close**」で大丈夫です。

標準では 21SMA になっていますが

20EMA や 21SMA は使っている人が多く、

機能する可能性が高いためまずは 21SMA でやってみましょう。あとは「0、0」で OK です。

移動平均乖離率を使った トレード手法

移動平均乖離率を使った トレード手法



移動平均乖離率を使ったトレードの基本は、移動平均線から乖離した場所で逆張りになります。ただ、どこが天井なのか底なのかをリアルタイムで判断するのは難しいので、単純に乖離が大きくなったらエントリーするのではなく、移動平均乖離率にトレンドラインを引くのがいいです。

移動平均乖離率にラインを引く場合



このように高値や安値にラインを引き、適当な所に
トレンドラインを引いて、
トレンドライン上に乖離率がタッチした時に
逆張りでエントリーします。

移動平均線のブレイクや 長いローソク足でエントリーする手法

移動平均線のブレイクや 長いローソク足でエントリーする手法

長期移動平均線が上向きの際は、長期的に見て上昇トレンドが発生しているため基本的には「**HIGH**」でエントリーしますがどこでエントリーするかが難しい所です。

移動平均線が下値支持線・上値抵抗線になる場合も多く、移動平均線にタッチした所で反発狙いでエントリーするのが良いですが、ブレイク狙いも一つあります。

長期移動平均線をブレイクしたら エントリーする手法

長期移動平均線をブレイクしたら エントリーする手法

上昇トレンドでも下降トレンドでもどちらでもいいのですが、長期移動平均線をブレイクした所を逆張りで狙います。

ポイント

- ・ 1 時間足と 200 日の移動平均線を使う
- ・ 上昇トレンド中の一時的な下落を狙う
- ・ 下降トレンド中の一時的な上昇を狙う
- ・ 長期線をローソク足がブレイク
- ・ 長いローソク足でブレイク
- ・ 足が確定する前にエントリー

時間足は 2 時間や 4 時間を使っても良いですし、移動平均線は 100 日でも良いですが、長期トレンドで見るのがコツです。

上昇トレンドの場合



このように、長期線が上向きで上昇トレンドを形成している時は、**一時的に長期線を下抜けた所がエントリーポイント**になります。

足が確定する前の移動平均線を下抜けた時点で入ります。その後、下ヒゲを付けて反発するのが理想的です。その後、足の実体が線を抜けてしまう場合でも反発する可能性が高いです。

下降トレンドの場合



下降トレンドの場合も同じで、
一瞬上昇して**長期線をブレイクした時が、
売りエントリータイミング**です。

長期的な下降トレンドを形成中の場合、長期線を抜けてもすぐに戻される可能性が高いため、抜けた時点で入っておきます。

ブレイクに順張りする場合

ポイント

- ・長期線を足の実体がブレイク
- ・ブレイク時の足が直前の足の2～3倍の長さ
- ・強いトレンド発生時には入らない



トレンドが弱い時に、長期線を長いローソク足でブレイクしたら、それに付いていきます。

足が確定してから入っても良いですが、
ブレイクした時点でエントリーし、ヒゲが出て
戻した場合は切るという方法が良いと思います。

ローソク足が大きく動いた時は、そちらの方向に
大きな力が働いていることとなります。

強いトレンド発生時には、長い足が出てもすぐに戻
されてしまう可能性が高いですが、弱いトレンドや
もみ合い時の長い足のブレイクは要注目です。

ゴールデンドクロス・デッドクロスとは

ゴールデンクロス・デッドクロスとは

移動平均線の短期線が、中長期線を上から下に抜けた状態を「**デッドクロス**」と呼び、短期線が、中長期線を下から上に抜けた状態を「**ゴールデンクロス**」と呼びます。

2本の移動平均線がクロスする場面が、ポイントになります。

「期間の短い線が期間の長い線を下抜けるか上抜けた状態」ですので、中期線が長期線とクロスした時も、デッドクロスやゴールデンクロスと言いますが、短期線を元に売買ポイントを探るのが基本です。どのような場面でも、線がクロスしたら売買サインと判断できますが、その時の移動平均線の向きや相場の状況によって信頼度が変わってきます。

※何日線を使えば良いかわからないと思いますが、特に決まりはありません。

① ゴールデンクロスが発生した時

中長期線の向きが「横ばい」もしくは「上向き」の時は、その後トレンドが発生しやすくなります。

短期が中期と長期を同時に上抜くような場面では、さらにトレンドが強くなる可能性があります。

② デッドクロスが発生した時

中長期線が「横ばい」もしくは「下向き」の時に信頼度が高くなります。

ゴールデンクロスやデッドクロスで売買する時は、中長期線の向きに注目しておきましょう。

③ ゴールデンクロス・デッドクロス

ゴールデンクロス・デッドクロスが発生している時は、中長期線の向きが短期線の向きと逆の動きをしていると、すぐに跳ね返される可能性が高くなります。

④ 短期線と中長期線 (ゴールデンクロス)

短期線と中長期線の下から上に抜けてゴールデンクロスの状態では、中長期線が下向きの状態でのクロスのため、すぐに跳ね返されています。

⑤ 短期線と中長期線 (デッドクロス)

短期線が中長期線の上から下抜けてデッドクロスの状態では、中長期線が上向きの状態でのクロスのため、すぐに跳ね返されています。

このように、中長期線の向きが短期線の向きと逆行していると、一瞬ゴールデンクロスやデッドクロスが発生しても、すぐに元に戻ってしまう事が多いです。

⑥もみあい相場（レンジ相場）

もみあい相場（レンジ相場）では、移動平均線のクロスが頻繁に発生するため、信頼度が低くなります。

相場が方向感無くもみ合っている時には、移動平均線を売買サインに使うのはやめて、他のテクニカル指標を使うか、もみ合いを抜けてトレンドが発生するまで待つのが良いでしょう。

また、短期線同士・長期線同士のクロスは、サインが出過ぎたり、サインが遅れるので、ダマシが多く機能しないことが多いです。